

向山通信 特別号

令和4年12月14日



向山小学校の教育目標：○やりぬく子 ○思いやりのある子 ○よく考える子

令和4年度 学力向上を図るための調査結果（概要）のお知らせ

令和4年度の「全国学力・学習状況調査」（6年生）と「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」（4～6年）の結果についてお知らせします。紙面の都合で、特徴が明らかで、特にご家庭でご理解いただきたい部分のみのお知らせとなることをご了承ください。

【6年生 全国学力・学習状況調査（4月19日実施）】

（1）各教科、観点ごとの正答率

※太字は全国・東京都平均を上回ったもの。

国語	学習指導要領の領域別 平均正答率（%）					国語全体
	知識及び技能		思考力・判断力・表現力			平均正答率（%）
	言葉の特徴や使い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	
向山小	71.8	75.3	75.9	53.5	79.7	72.0
東京都	71.4	75.5	69.1	51.3	72.1	69.0
全国	69.0	77.9	66.2	48.5	66.6	65.6

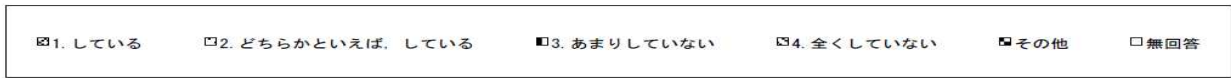
算数	学習指導要領の領域別 平均正答率（%）				算数全体
	A 数と計算	B 図形	C 変化と関係	D データの活用	平均正答率（%）
向山小	78.6	72.4	65.3	79.2	73.0
東京都	72.1	68.6	57.6	72.4	67.0
全国	69.8	64.0	51.3	68.7	63.2

理科	学習指導要領の領域別 平均正答率（%）				理科全体
	A区分		B区分		平均正答率（%）
	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	
向山小	57.6	63.5	81.4	69.9	68.0
東京都	53.4	62.4	77.4	67.7	65.0
全国	51.6	60.4	75.0	64.6	63.3

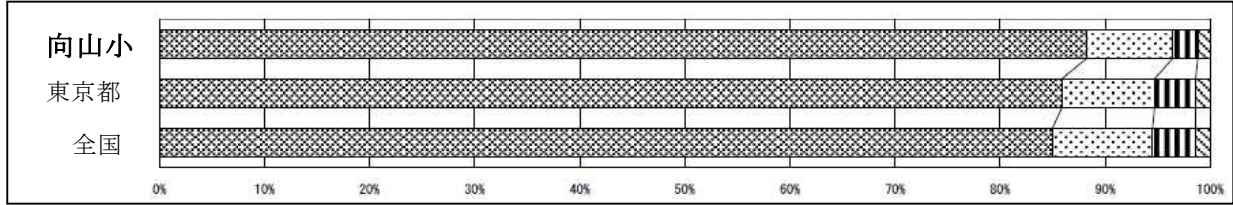
算数、理科は、すべての領域で全国・東京都平均を上回りました。国語は、「我が国の言語文化に関する事項」の領域で全国・東京都平均を下回りましたが、他のすべての領域で上回りました。5年生までの学習の積み重ねの結果だと思えます。算数は、1、2年生で学力向上支援講師が入ったT.T体制による指導、3年生からは習熟度別指導を行い、ノート指導なども含め学校全体で統一性のある指導を行っており、成果が表れた要因の一つと考えられます。

国語の「我が国の言語文化に関する事項」の設問は、手紙を書く際に必要な注意点（漢字や仮名の大きさ、配列など）に気付くことができるかどうかをみるものでした。「行の中心」（配列）への気付きが足りなかったようです。書写の時間だけでなく、日頃の学習の中で意識ができるよう指導をしていきます。

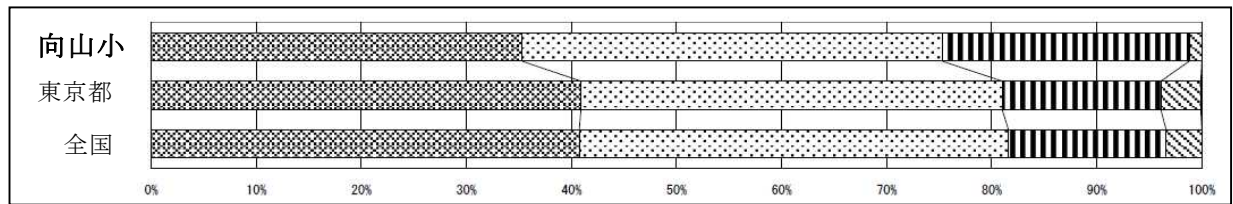
(2) 「児童質問紙」の集計結果 (一部)



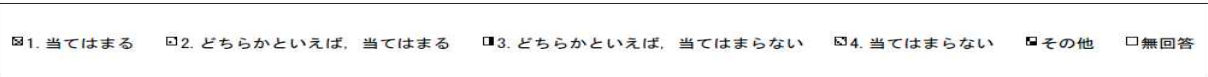
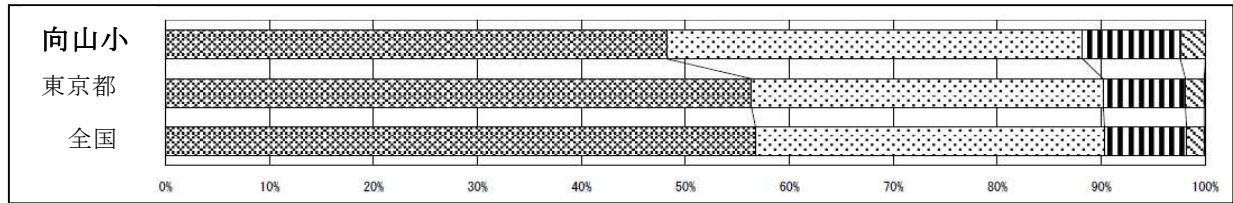
① 朝食を毎日食べていますか。



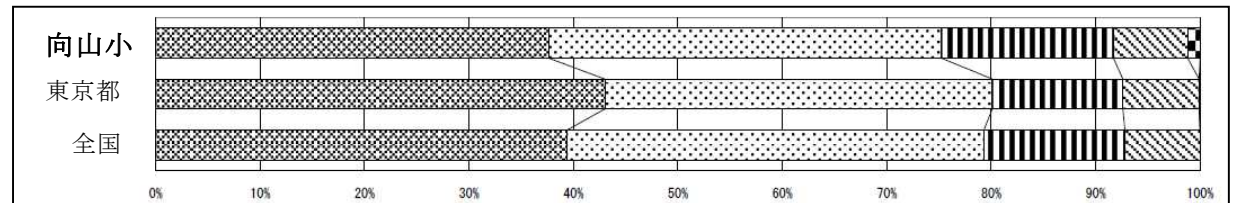
② 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



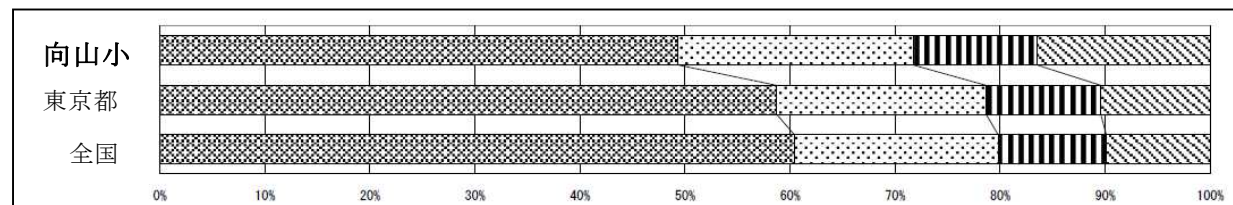
③ 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



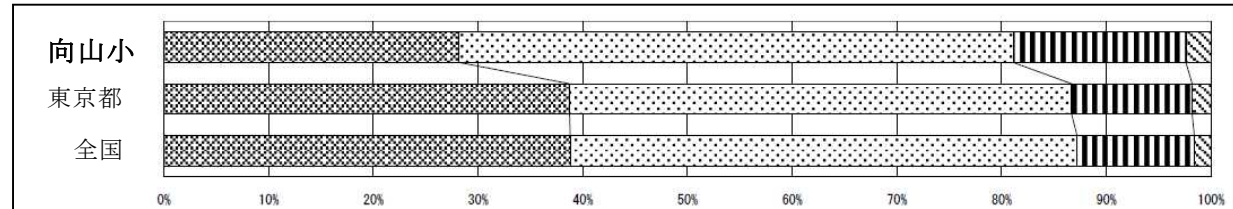
④ 自分には、よいところがあると思いますか。



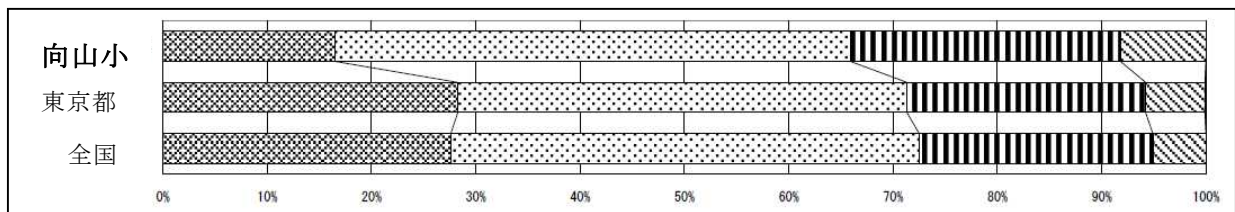
⑤ 将来の夢や目標を持っていますか。



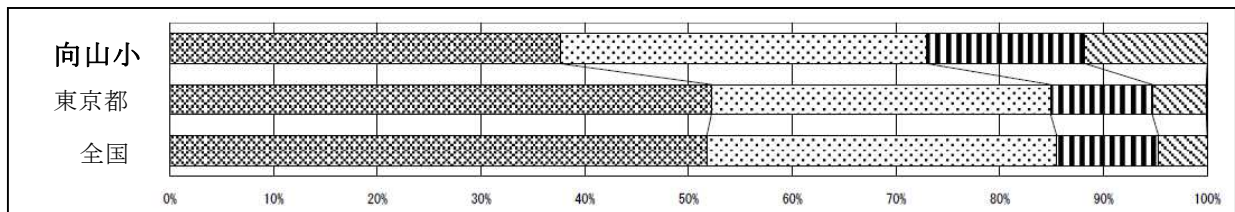
⑥ 自分で決めたことは、やり遂げるようにしていますか。



⑦ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。



⑧ 学校に行くのは楽しいと思えますか。



①～③の基本的な生活習慣（朝食、就寝・起床時刻）については、就寝時刻について都や全国と比べると課題は見られるものの、概ね良好な結果であるとみています。

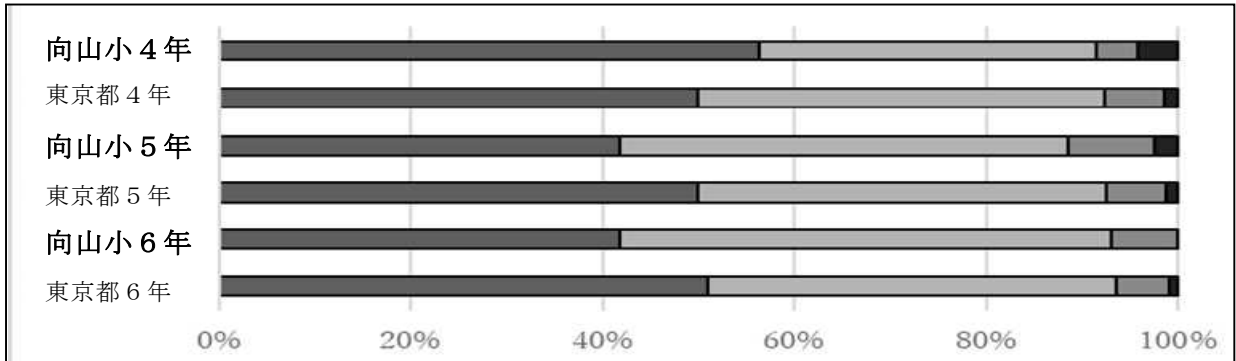
しかし、④～⑧の挑戦心、達成感、自己有用感については、肯定的な回答が都や全国に比べると少ないという結果になりました。特に⑧については、10ポイント以上の開きがありました。コロナ禍による行動制限が影響していると思われるが、全国的に状況は同様です。子どもたちの思いや気持ちが生かされ、達成感、満足感を味わえるような教育活動を一層工夫していく必要があると考えます。

ただし、今回の調査の実施は4月中旬でした。11月に実施した校内の学校評価（児童アンケート2～6年生対象）では、「楽しく学校に通っている。」という設問に対して、約9割の子どもが肯定的な評価をしています。今年度は感染防止を図りながら教育活動はできる限り従来に近い形で行うように工夫をしてきました。移動教室やドリームハッピーなど関わり合いのある活動も行ったことが、肯定的評価につながったのではないかと考えます。

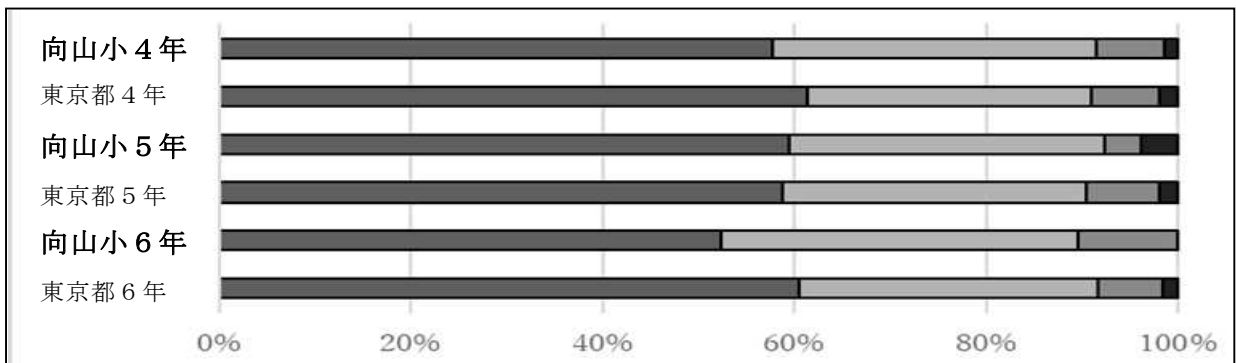
【4～6年生 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査（一学期実施）】

■ よく分かる ■ どちらかといえば分かる ■ どちらかといえば分からない ■ ほとんど分からない

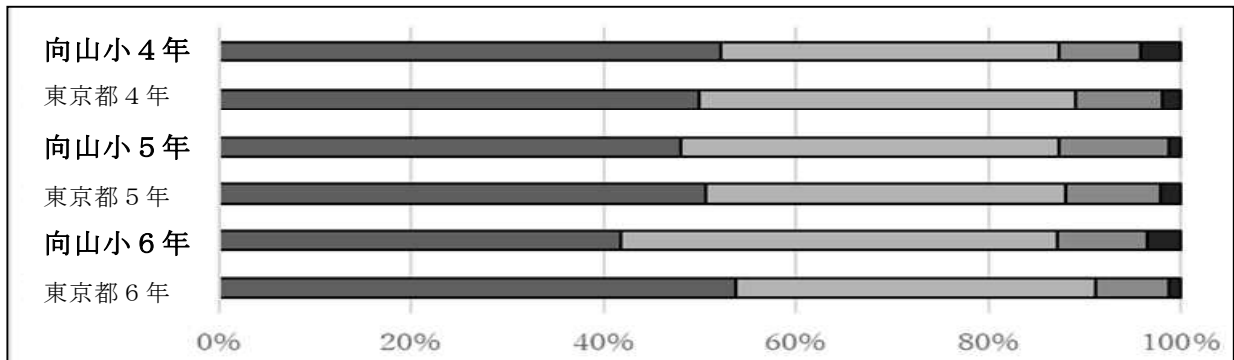
① 国語の授業の内容はどのくらい分かりますか。



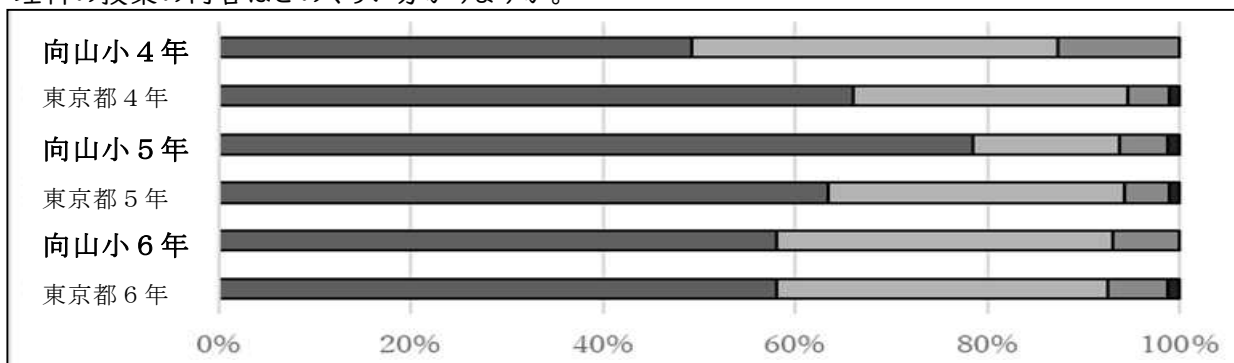
② 社会の授業の内容はどのくらい分かりますか。



③ 算数の授業の内容はどのくらい分かりますか。

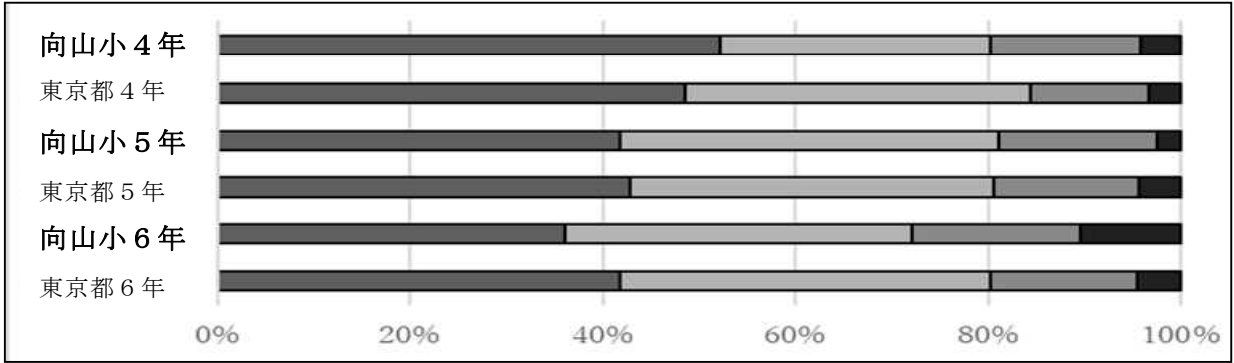


④ 理科の授業の内容はどのくらい分かりますか。

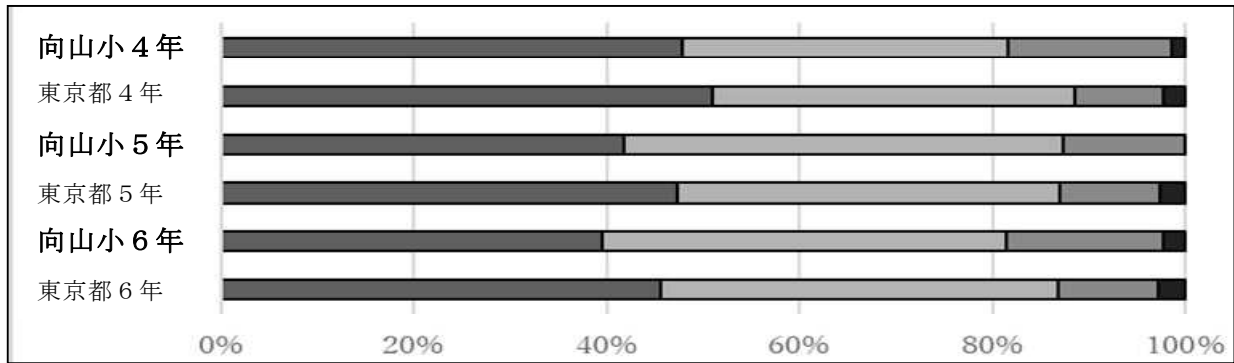




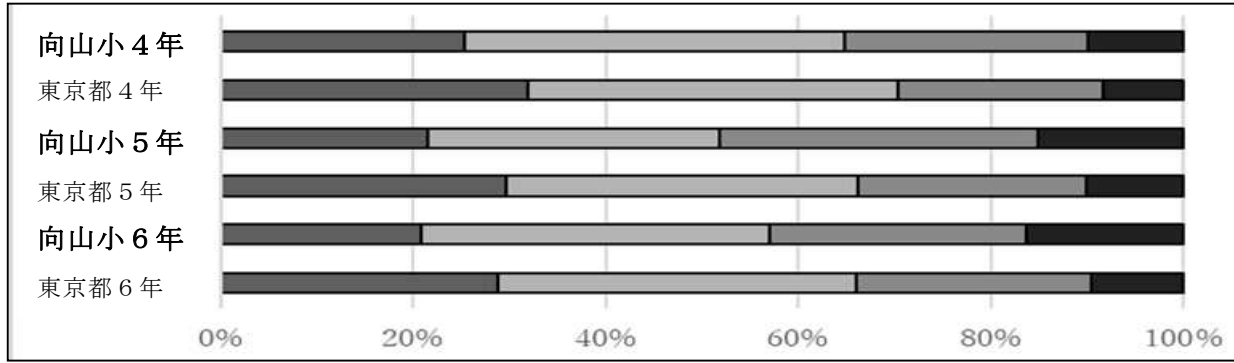
⑤ 難しいと感じるでも、最後まであきらめずに取り組んでいる。



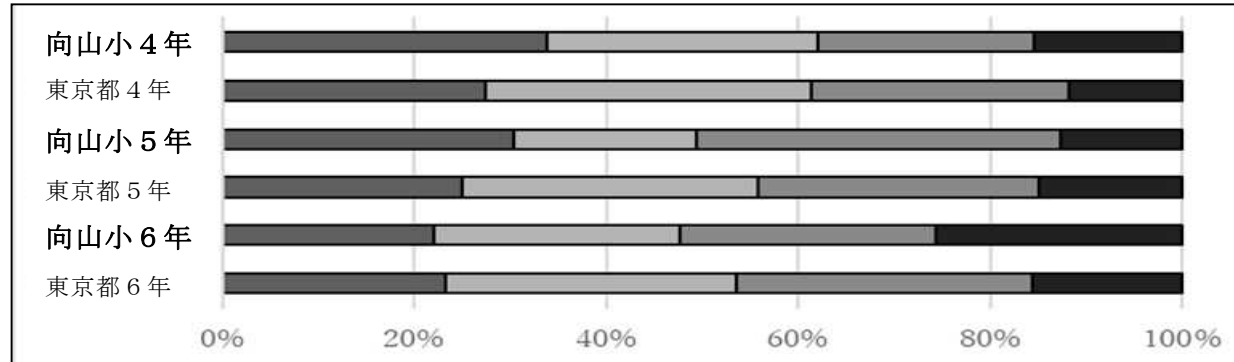
⑥ 集中して学習に取り組んでいる。



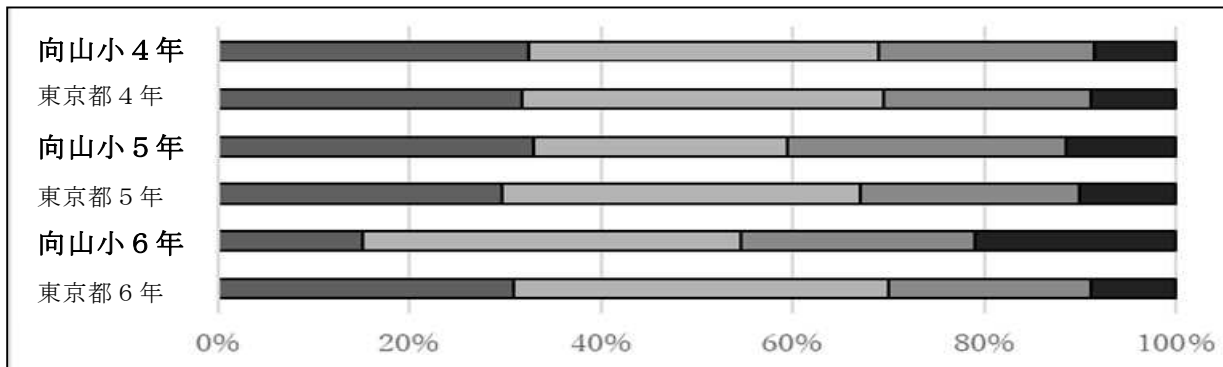
⑦ 学習してもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。



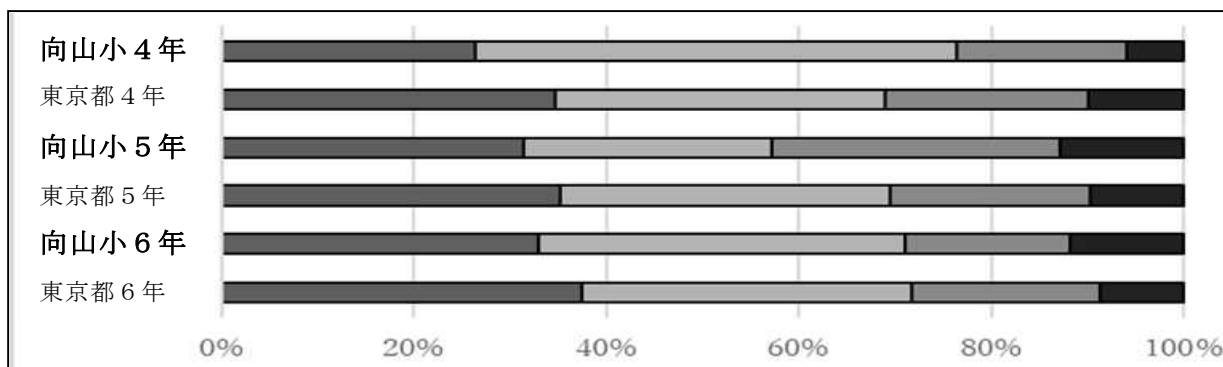
⑧ 自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。



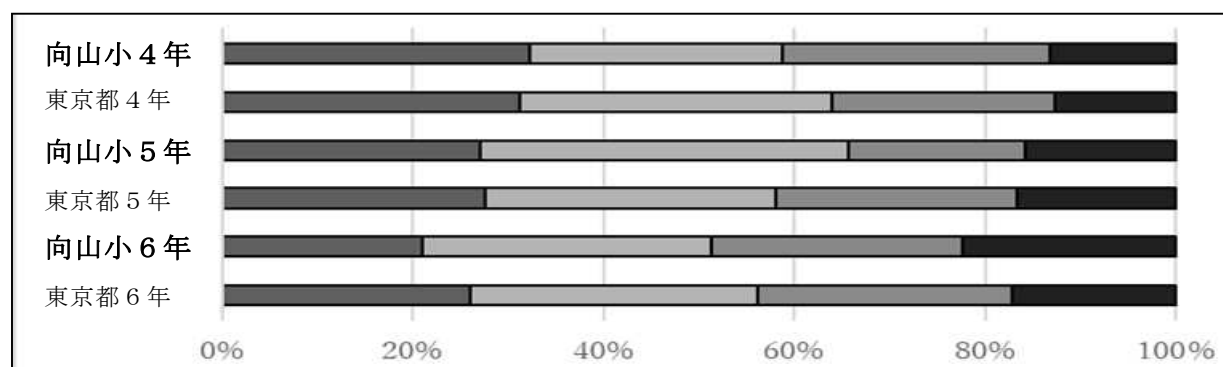
⑨ 他の人と相談して、考えを深めるようにしている。



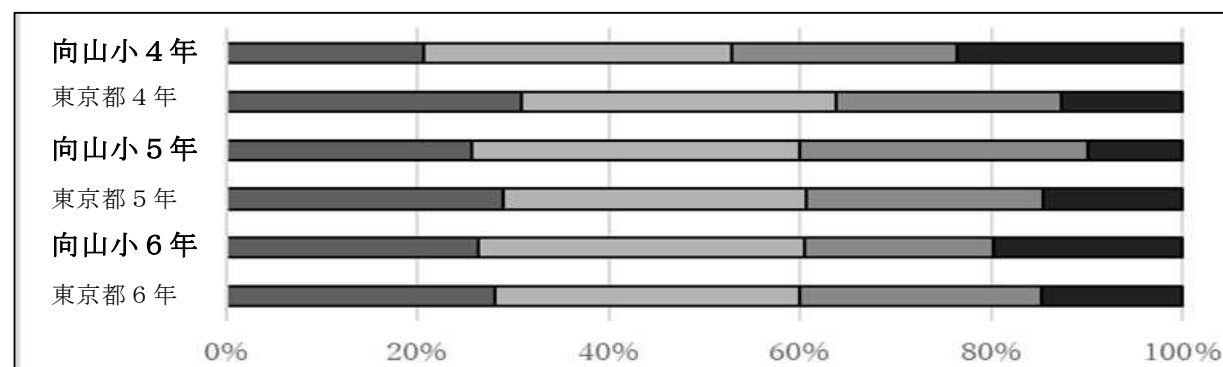
⑩ 自分で計画を立てて学習している。



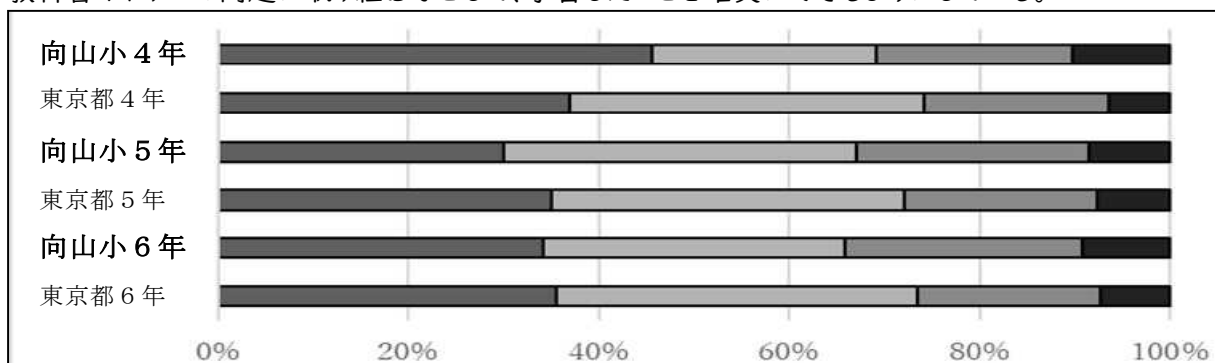
⑪ 教科書を読むなどして、授業でこれから学習することの見通しをもつようにしている。



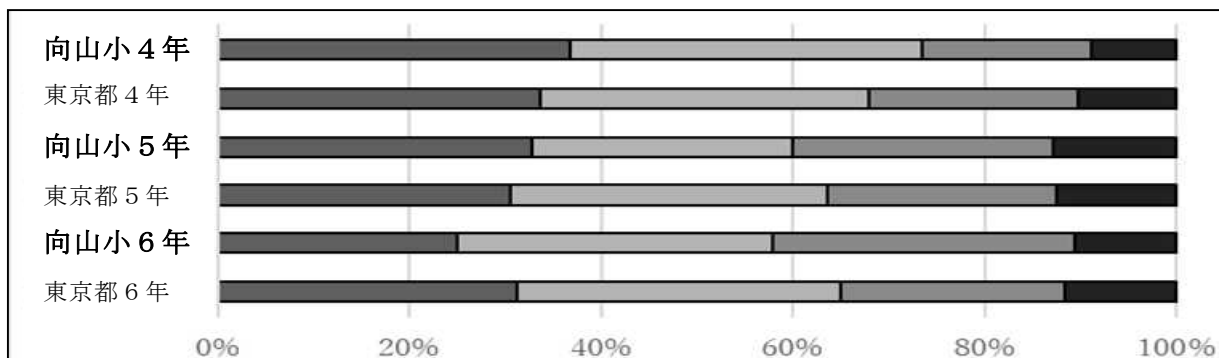
⑫ 教科書やノートを読み返すなどして、授業で学習したことを振り返るようにしている。



⑬ 教科書やドリルの問題に取り組むなどして、学習したことを確実にできるようにしている。



⑭ 授業で学習した内容について、疑問に思ったことや興味をもったことを調べるようにしている。



①～④の授業内容に対する理解の程度に関する設問では、どの学年も概ね9割前後の肯定的評価を得ました。子どもは学習に一生懸命に取り組んでいて、教員は学習指導に熱心に取り組んでいる成果であると捉えています。

⑤～⑨の学習の進め方に関する設問では、肯定的な回答が低くなりました。都と比べても肯定的な回答がやや低い傾向にあります。集中して諦めずに学習には取り組んでいるものの、学習方法を工夫したり、考えたことを積極的に伝えたりするなどの主体的な学習態度には至っていないということが言えます。学校ではこのような実態を踏まえて、授業改善推進プランを毎年作成しています。また、校内研究では、今年度「自分の考えをもち、楽しく表現しようとする子の育成」というテーマで授業改善を行ってきました。今後も一層、主体的な学習態度の育成に力を入れた指導方法の改善を進めていきます。

⑩～⑭の学習習慣に関する設問では、学習塾や家庭教師による学習等を含めない回答を求めています。家庭での宿題や自主学習について問われているということです。肯定的な回答は6割前後になっており、都に比べて、同等かやや低い傾向にあります。4年～6年の担任は、家庭学習への働きかけは力を入れており、自主学習を教室内や廊下に掲示するなどして、相互啓発の場も設けています。今後もこのような取組を工夫し、「楽しいから学ぶ」、「やりたいから学ぶ」、「自分のために学ぶ」という感覚を高めていきたいと考えています。